

緯も言ひせざりし。信長公まで出陣を止ら。歸陣ゆるを令には
非多く。選去みを。始終食是譲る邪徳あらん。猶か否が中國
選派。事もみゆに達功ある。自己の功のみ。やむと候。姫偏執の
いれる者。非道理と考へて言ひせば。中將も下向府まで。實理と
あがまれ御出馬を止させまつゆく。是ぞ御又お御生瀬の過失
とあらじたくまゐる。一統平均の御志也。斯ては其功成就しが比。
支流の移ることへ。強を離き。義も疾く。虚て月日を経ゆう
ちふ。内府城もじめられてまつて。忠義の勇士も光衰かして。今殺終
るの期にいたる。何とく御本意達せらる。織田家の軍威
猛。されども。毛利の強衆に及ばず。故小嘲弄せまんこと。
持憾もまゝ。腹懐す。或の怒。或の歎。誠忠一途にまじる
ふぞ。中將殺く。御心泣き。頻に姫懐せらきたり
持川攻秀を降。高山中ノ属取大矢田

胸こころをもつて仁とす。子こたる徳義とぞ。井中ふ産して天
を小さうとも。是浅愚なりと謂ざらんや。然ば後忠羽柴が馳めみ
かとく姫懐す。ひ先このうへ考をうが。面達もひそば神若志殿
改陥さんとかがくや。たゞ。叔小神若を政らき。ふ城兵をびく
防ぐ。ども織田家の勇士。後忠羽柴も。中にも羽柴が股肱の後脇
攻基内。一番をひ。これふよりて要瀬被。大將民部。大輔。叔又ある
神若夏方丈に害せられ。城兵總く降參。しかば。遠圖ふ。さて志
敵ふ推進ひ。早速に到るうち。城主櫻井左京亮。明雄かと
選去せり。斯また力を勞せび。あ城ともに陽美をき。これをもつて